

Financial Report

業績のご報告

連結

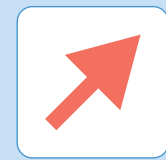
売上高

9,220 億円
(前年同期比 +17.0%)



営業損益

698 億円
(前年同期比 -)



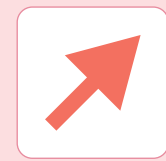
経常損益

493 億円
(前年同期比 -)

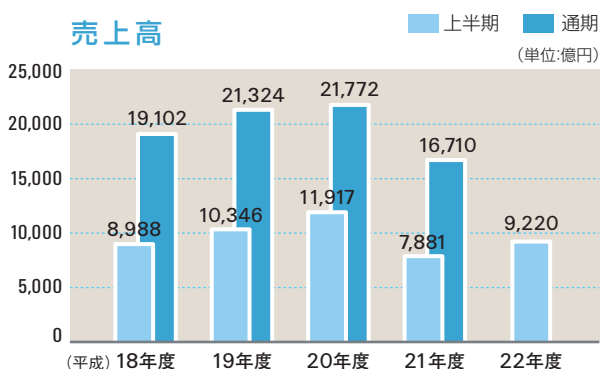


当期純損益

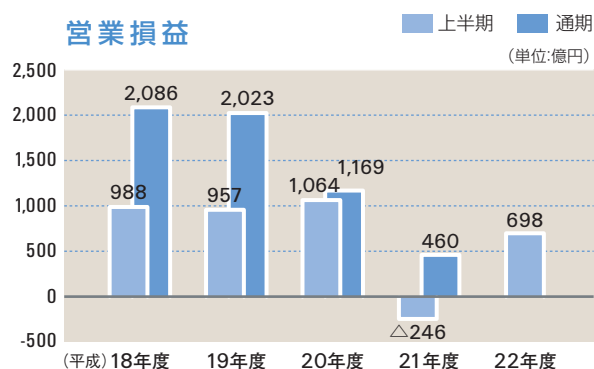
294 億円
(前年同期比 -)



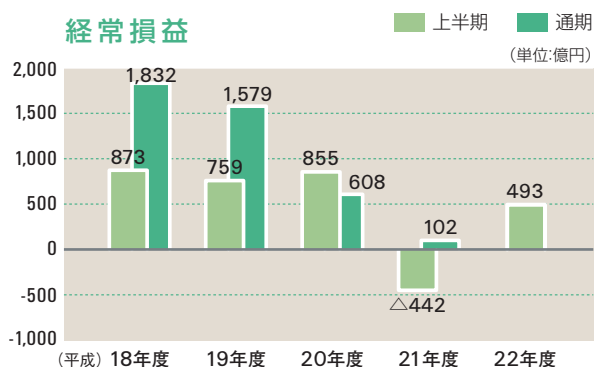
売上高



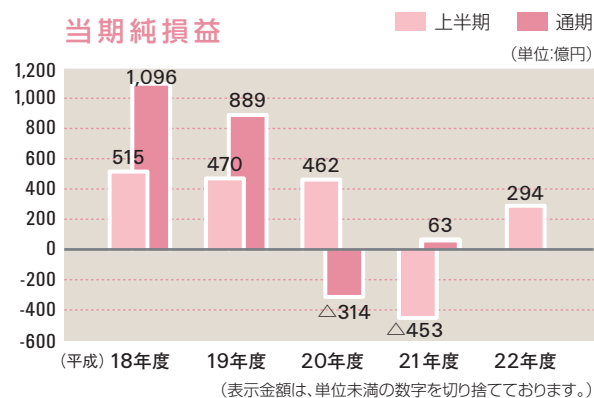
営業損益



経常損益



当期純損益



当上半期の概況

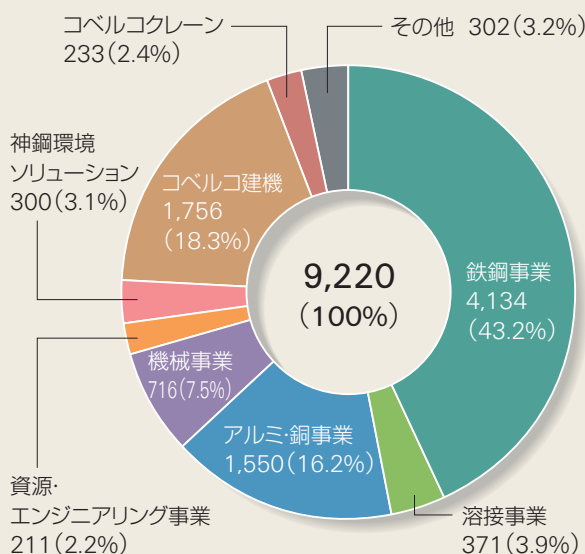
当上半期のわが国経済は、景気対策の効果や、海外経済の改善を背景に、昨年度からの緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前年同期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前年同期を大きく上回りました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期に比べ1,338億円増収の9,220億円となり、営業損益は、前年同期に比べ944億円増益の698億円、経常損益は、前年同期に比べ935億円増益の493億円、上半期の純損益は、前年同期に比べ747億円増益の294億円の、それぞれ利益となりました。

なお、平成23年3月期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)を適用しており、従来、製品等の類似性を考慮して決定しておりました事業セグメントの区分を経営管理上の事業セグメントの区分に変更しております。前年同期比は前年同期の業績を新区分に作成し直して記載しております。

事業別売上高(平成22年度「上半期」) (単位:億円)



(注)上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額355億円を差し引いた金額が、上半期連結売上高の合計額9,220億円となります。なお、各事業分野別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼事業部門

4,134 億円
(前年同期比 +19.4%)



鋼材需要は堅調に推移しました。

- 鋼材は、景気対策効果などにより、国内外における製造業向け需要が堅調に推移し、鋼材出荷数量は前年同期比増加。
- 鋼材販売単価は前年同期並み。
- 造船向け需要の減退影響から鋳鍛鋼の売上高は前年同期比減少。
- チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整進展により前年同期比増加。

- 経常損益は、在庫評価影響の大幅改善もあり、前年同期比635億円増益の91億円の利益。



神戸製鉄所 第7線材工場



溶接事業部門

371 億円
(前年同期比 △4.7%)



溶接材料の販売数量が
増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、中国や東南アジアの需要が堅調に推移し、前年同期比増加。
- 溶接システムの売上高は、国内の建築分野の低迷影響で前年同期比減少。
- 経常損益は、溶接材料の販売数量増影響から、前年同期比22億円増益の21億円の利益。



各種溶接材料



アルミ・銅事業部門

1,550 億円
(前年同期比 +28.2%)



アルミ製品、銅製品ともに
需要が好調に推移しました。

- 自動車向けや液晶・半導体製造装置関連を中心に需要が好調に推移し、アルミ圧延品の販売数量、アルミ鋳鍛造品の売上高ともに前年同期比増加。
- 半導体・自動車端子用の銅板条の需要が好調、猛暑によりエアコン用銅管需要が増加し、銅圧延品の販売量は増加。

- 販売価格に転嫁される地金価格が上昇。
- 経常損益は、前年同期比131億円増益の97億円の利益。



半導体製造装置用 チャンバー



機械事業部門

716 億円
(前年同期比 △9.7%)



自動車および石油精製・石油化学業界などでの設備投資が
緩やかに回復しました。

- 自動車および石油精製・石油化学業界などでの設備投資が緩やかに回復。関連製品の受注が前年同期比増加。
- 当事業の受注高は前年同期比61.5%増の694億円。上半期末の受注残高は1,572億円。
- 売上高は石油精製用高圧反応器の売上計上が集中した前年同期に比べ減少。

- 経常利益は前年同期比20億円減益の85億円。



スチームスター®



資源・エンジニアリング 事業部門

211 億円
(前年同期比 △15.1%)



大型還元鉄プラントを
受注しました。

- 大型還元鉄プラントを受注。受注高は前年同期を上回る。
- 受注高は前年同期比209.9%増の478億円。
- 当上半期末の受注残高は927億円。
- 売上高は、大型ペレットプラントの売上を計上した前年同期比では減少。
- 経常利益は前年同期比2億円減益の14億円。



ITmk3® 回転炉床炉



神鋼環境 ソリューション

300 億円
(前年同期比 △19.9%)



水処理プラントや化学・食品
関連装置の受注が堅調に推移
しました。

- 水処理プラントや化学・食品関連装置の受注が堅調に推移し、受注高は前年同期比6.1%増の353億円。
- 上半期末の受注残高は450億円。
- 売上高は、大型廃棄物処理プラントの売上を計上した前年同期に比べ減少。
- 経常利益は、コスト削減効果により、前年同期に比べ6億円増益の11億円。



冷却塔



コベルコ建機

1,756 億円
(前年同期比 +67.4%)



中国以外の地域でも需要は
堅調でした。

- 中国での販売台数が前年同期に比べ大幅に増加。
- 東南アジアでは需要の回復が続く、国内でも需要は回復に転じ、販売台数は前年同期を上回る。
- 経常利益は前年同期に比べ180億円増益の188億円。



油圧ショベルSK225SR



コベルコクレーン

233 億円
(前年同期比 △16.4%)



一部地域を除き需要が低迷しました。

- 一部地域を除き需要が低迷し、販売台数は前年同期を下回る。
- 経常利益は前年同期比5億円減益の1億円。



シティコンシャスクレーン
PANTHER-X700

etc

その他

302 億円
(前年同期比 △25.2%)



経常利益は改善しました。

- 不動産販売において、分譲マンションの引渡し戸数が減少。
- 液晶配線膜用ターゲット材の販売数量は増加。
- 経常利益は、液晶配線膜用ターゲット材の販売数量増影響から前年同期比4億円増益の20億円。



ジークレフ御影城ノ前



ターゲット材

平成22年度(2010年度)連結業績見通し

	平成22年7月29日発表	平成22年10月28日発表	(参考) 平成21年度連結業績
売上高	1兆9,400億円	1兆9,100億円	1兆6,710億円
営業利益	1,050億円	1,150億円	460億円
経常利益	750億円	800億円	102億円
当期純利益	450億円	450億円	63億円
1株当たり当期純利益	14円98銭	14円98銭	2円9銭